



受賞者氏名	赤松 佳珠子	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	①2020年5月29日 ②2020年10月6日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	①一般社団法人日本建築学会 ②一般社団法人 建築設備総合協会	
受賞名	①2020年日本建築学会作品選奨 ②第18回 環境・設備デザイン賞 第Ⅲ部門(都市・ランドスケープデザイン部門)優秀賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>【渋谷ストリーム】</p> <p>①2020年日本建築学会作品選奨</p> <p>■賞概要</p> <p>日本建築学会作品選奨は、その年の作品選集に掲載された作品であつて、学術・技術・芸術の総合的視点からみて、特に優れたものを対象とする。作品選集の刊行は、1989年に始まり、日本における建築作品の発表の場として、国内外より高い評価を受けており、本会の最も重要な事業のひとつとなっております。作品選集掲載作品のうちから特に優れた作品を「作品選奨」として選考し表彰します。</p> <p>■審査講評</p> <p>別紙添付より</p> <p>②第18回環境・設備デザイン賞 第Ⅲ部門(都市・ランドスケープ部門) 優秀賞</p> <p>■賞概要</p> <p>建築における環境・設備技術の役割は一段とその重みをましており、建築のデザインに対して、設備機器や設備システムのデザインが大きく関与していることが明らかとなってきています。環境・設備デザインは、建築設備分野において従来あまり意識されることのなかった審美性などの「感性」に関する要素に焦点をあて、これに「機能性」「経済性」と環境問題も視野に入れた「社会性」を加えた4つの評価軸により、総合的かつ客観的な評価が可能と考えます。環境・設備デザインに的確で客観的な評価が広く一般社会に公開され、認知されることが望ましいと考えます。そのために優秀な「環境・設備デザイン」に対して賞を送って表彰することを趣旨とします。</p>	

受賞者氏名	赤松 佳珠子	
所属	デザイン工学部建築学科	
受賞年月日	①2020年9月18日 ②2020年10月1日 ③2020年12月8日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	①一般社団法人ニューオフィス推進協会 日本経済新聞社 ②公益財団法人日本デザイン振興会 ③公益社団法人日本建築家協会	
受賞名	①第33回 日経ニューオフィス賞 東北ニューオフィス推進賞 ②2020年度グッドデザイン賞 ③優秀建築選 2020 100選	
受賞(研究)内容詳細	<p>【山元町役場】 ①第33回日経ニューオフィス賞 東北ニューオフィス推進賞</p> <p>■賞概要</p> <p>昭和61年12月に通商産業省(当時)のニューオフィス推進委員会より「ニューオフィス化推進についての提言」が発表されて以来、30年間にわたり、「快適かつ機能的」なオフィスづくりの普及・促進を目的としたニューオフィス化推進運動がおこなわれてきた。近年の企業経営においては、新たな価値を生み出すフィールドとしてのオフィスの重要性が高まり、「快適かつ機能的」なオフィスに、感性を刺激し、創造性を高めるといった新たな機能にも注目されることとなった。このような背景を考慮し、企業経営の重要な資源としてのオフィスのあるべき姿を模索することは、ゆとりと豊かさの実現、また、知的生産性の向上や知識創造の活性化といった点からも大変意義のあることと思います。「ニューオフィス」づくりの普及・促進を図ることを目的とし、創意と工夫をこらしたオフィスを表彰する日経ニューオフィス賞を実施。</p> <p>②2020年度グッドデザイン賞</p> <p>■賞概要</p> <p>グッドデザイン賞は、デザインによって私たちの暮らしや社会をよりよくしていくための活動。1957年の開始以来、シンボルマークの「Gマーク」とともに広く親しまれてきた。</p> <p>グッドデザイン賞は、製品、建築、ソフトウェア、システム、サービスなど、私たちを取りまくさまざまなものごとに贈られる。かたちのある無しにかかわらず、人が何らかの理想や目的を果たすために築いたものごとをデザインととらえ、その質を評価・顕彰しています。</p> <p>■審査講評(伊藤香織/五十嵐太郎/山崎 亮/山梨 知彦)</p> <p>ありがちな「庁舎らしい」デザインの一つが、強い正面性を持たせることではなかろうか。この町役場の計画では、「求心的なまちの要・復興のシンボル」を目指して、全方向にまちの風景とつながる「裏表のない庁舎」のデザインが掲げられ、そこから正面を持たない特区庁的な外観と平面プ</p>	

ランが導かれている点に興味深い。復興のシンボルとしての顔となると同時に、町に新しい風景を生み出してくれることを期待している。

③ 優秀建築選 2020 100 選

■ 賞概要

日本建築家協会（以下、本会もしくは JIA）は、日本国内における、その年度の優秀な建築作品を選定、記録し、その活動と業績を広く社会に伝えることにより、文化としての建築の価値を拡げる事を目的として、優秀建築選の選定、及び JIA 建築年鑑の発刊を行います。

さらに優秀建築選の中から、特に建築文化の向上に寄与し、芸術・技術の両面において総合的な価値を発揮した建築について、「JIA 日本建築大賞 2020」、「JIA 優秀建築賞 2020」を授与します。また優秀建築選作品は「日本建築家協会優秀建築選 2020」として、「JIA 新人賞」、「JIA25 年賞」、「JIA 環境建築賞」のすべての受賞作品と共に「JIA 建築年鑑 2020」に収録します。



旧東急東横線の線路線形を踏襲する2階貫通路（ストリーム・ライン）



3階よりストリーム・ライン・大階段越しにアーバン・コアを見る



清流復活水が壁泉を流れる渋谷川



かまぼこ屋根モチーフと246号横断デッキ

風を感じる心地よさをつくり出す

旧東急東横線渋谷駅ホーム、線路跡地等。東横線の始発・終着駅であった場所であり、美しいカーブを描く軌道とホーム、そして、かまぼこ屋根の大きな風景が多くの人々の記憶に刻まれている。日常的に慣れ親しんできた記憶を継承し、この場所が持つポテンシャルを未来へつなげる。渋谷の持つ界限性やストリートの魅力を増幅すること。自転車とスニーカーでやってくるであろうオフィスワーカーに馴染む場所になること。谷地形に対して首都高、明治通り、渋谷川、JR、歩道橋など、様々なアクティビティ、多様なスピード感が交錯する真ただ中にあるダイナミズムと、ここに流れる風そのものを感じる。

国道246号上部を渡る旧高架橋の一部をそのまま再利用しながら旧東横線の線路線形を踏襲したポーラスな半外部の貫通路「ストリーム・ライン」。渋谷のスケールにブレイクダウンした路面店のような店舗ボリュームは、吹き抜ける風や光の移ろい、街の喧噪や渋谷川の流れる路地のような抜けとテラスを生み出し、渋谷から代官山へと新たな人々の流れをつくり出す。明治通りのアーバン・コア側からは、アイコンとなる大階段がストリーム・ラインを経由して、将来的には桜丘町に抜けるルートにもなる。そして、インダストリアルで即物的な素材感の仕上げの中に、ストリームイエローのエスカレーターを配置し、都市スケールで現れる立体的な経路を可視化した。渋谷ストリームは、人々が滞留できる居心地のよい場所であると同時に、街のあらゆる方向に向かって人々の流れをつくり出すハブとしても機能している。

(赤松 佳珠子 / CA t)



夜景 明治通り沿いにアーバン・コア、右手にホールを見る アーバン・コア 地下からの見上げ

DATA

- 所在地 東京都渋谷区三丁目 21 番 3 号
- 総合監修 東急株式会社
- 設計 東急設計コンサルタント、CA t (デザイナー・アーキテクト)
- 都市計画 日建設計
- オフィスロビー内装設計 サポーズデザインオフィス
- ホテル内装設計 UDS
- 照明デザイン 岡安泉照明設計事務所
- 外構アクティビティデザイン日建設計・石勝エクステリア
- 施工 渋谷駅南街区プロジェクト新築工事共同企業体
- 主要用途 事務所、店舗、ホテル、ホール、駐車場等
- 構造 鉄骨造 (一部 RC 造)
- 延床面積 約 116,000 m²
- 竣工 2018 年 9 月 13 日
- 受賞 日本空間デザイン賞 2019 大規模商業施設部門 銀賞
2019 年グッドデザイン賞ベスト 100
2020 年日本建築学会作品選奨
第 18 回環境・設備デザイン賞 第三部門 優秀賞
- 写真 阿野 太一

渋谷ストリーム

正会員 遠藤郁郎 殿

正会員 酒井良仁 殿

正会員 赤松佳珠子 殿

旧東横線渋谷駅のホーム、線路跡地および渋谷川沿いの4つの街区を活用した全長600mにわたる複合開発プロジェクトである。高層部のオフィス・ホテル、低層部の商業ゾーン・ホール等の機能と人の流れを、アーバンコア、大階段、連絡デッキなどの可視化された経路により、縦横に様々なレベルと方向から繋ぐ構成となっている。すり鉢状の地形が生む高低差や国道と首都高、JR線路によって分断されていた渋谷三丁目エリアの交通結節点としての機能を強化し、歩いて繋がるネットワークを恵比寿代官山方向へ拡げている。

「ストリーム」の名に込められるのは、刻まれている歴史と時間、受け継がれてきた個々の形態、この街を作り繁栄させてきた人々の思いへの丁寧な読み解きであり、掬い取ったひとつひとつの要素を大胆に変化し続ける街区の新たな骨格として再び一連の流れに昇華させた、千載一遇の取組みである。

均質なモニュメントになりがちな大規模開発全体を貫いて、自然環境と呼応するための仕掛けと人のスケールと目線からのアプローチが徹底して試みられている。複数ある経路それぞれを歩きながら目に映る風景には、周辺の古い街区とともに現物保存された線路をはじめとする鉄道遺産など、親しみと懐かしさのあるモノたちが散りばめられ、場所への愛着を呼び寄せる。

低層部は「ストリームライン」と呼ばれる反外部のゆるやかにカーブする貫通通路を中心に、ポーラスな抜けで自然と呼応する。少しずつ変化する視野と「抜け」から時折見える空と街が、アクティビティの流れを整え過ぎない仕掛けとなって外部との境界を意識から取り払い、街を歩く心地良さや気ままさを感じさせる。広場とエスカレーターが象徴的な縦動線を内包する「アーバンコア」は、水平に繋がる街区に垂直性を見せる対比的な要素として人の目線と流れを変化させ、ダイナミックな渋谷エリアの中心へと開放する。

高層部の特徴的なファサードはこのエリアの新しい顔を形成している。空に向かうグラデーションがアクティブな渋谷らしさと「ストリーム」を想起させ、併せて自然のうつろいを表現する外皮として綿密にデザインされている。ランダムに揺らぐ白いパネルは3種のサイズの組み合わせから成り、眺望を確保しつつ環境負荷を抑えるべくパネルの厚みは外気を取り入れる機能を有する。ガラス面に落とす影が時や天候による変化を見せる仕掛けでもある。

官民連携による渋谷川の再生を含め、事業主、デザイナー、アーキテクト、設計者など関わったチームメンバーが同じ目線でお互いの役割に真摯に取り組み、生みだすものと守られるものが注意深く吟味された街区が構築され、都心部再開発の新たな可能性が示されている。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。



鳥瞰 街を見守る 建物南東に市街地へ通じる幹線道路が通る



1階ロビーより執務スペースを見る



南東側夕景



2階議場 ルーバー天井越しにトップライトより光が注ぐ

海と山をつなぎ、人と人をつなぐ要としてのタウンホール

東日本大震災で甚大な被害を受けた山元町役場庁舎の新築復旧のプロジェクトである。

山元町は、敷地は宮城県の東南端にあり、太平洋に面し、水田の広がる低地（東）と、山側（西）に大きく分かれている。庁舎は、ほぼそれらの中心に建ち、庁舎の建つ敷地は中央公民館、歴史民俗資料館、ふるさと伝承館などの公共施設が集まる場所でもある。東日本大震災により、まちの約3割が浸水し、人口減少、少子高齢化という課題に加え、震災復興としての新しいまちづくりの一端を担う庁舎の在り方が問われていた。そこで、われわれは「海と山をつなぎ、人と人をつなぐ要としてのタウンホール」というコンセプトをかがげ、2015年のプロポーザルで設計者に選定された。求心的な復興のシンボルとして、人々が寄り添い、まちの復興・まちの未来をみんなでつくりあげていく、新しい庁舎を提案した。

敷地の中央に建つ鉄骨2階建ての庁舎は、杉の羽目板張りの大きな庇をもち、その庇下空間に展開される活動の風景がこの場所の顔となり、人々を迎え入れる。冬の山から吹き下ろす冷たい風や太陽の光など、自然条件に応答しながら、全方位的に周辺のまちとつながる、裏のない建築を目指した。執務スペースは、職員の方々とワーキンググループをつくり、新しいワークプレスの議論を重ね、課を超えた横のつながりを生み出し、町民スペースとも一体となるワンルームとした。北面のハイサイドライトから光を取り込み、大きな4つの吹き抜けを通して光が1階まで届く明るい屋内広場のような場所である。離散的に配置されたスモール・コアによって、多様な場をつくりだしている。

このプロジェクトは、山元町行政施設等将来計画検討委員会専門部会長を務められた小野田泰明氏（東北大学大学院工学研究科教授）をはじめ、職員、議員、町民の皆さんと新しい庁舎のことだけでなく、これからのまちづくりまで、数多くのワークショップや打合せなど、さまざまな議論を重ねてきた。甚大な被害を受けたこのまちのこれからの未来について官民越えて話し合う風景こそが、新しい復興庁舎としての在り方そのものである。

この新しい庁舎が、人と人をつなぎ、新しいふるさとの風景をみんなで育てていく場となることを願っている。

(赤松 佳珠子 + 大村 真也 / CA_t)



1階 町民スペースと軒下空間の一体利用可能

DATA

所在地 宮城県亶理郡山元町

主要用途 庁舎

建築 CA_t 構造 オーク構造設計

空調・衛生 科学応用冷暖研究所

電気 EOS plus

建築・外構 SOY source architects

ワークプレイスアドバイザー 本江正茂 / 東北大学

家具 藤森泰司アトリエ サイン TAKAIYAMA

ファブリック 安東陽子デザイン

照明計画 岡安泉照明設計事務所

施工 加賀田組

構造 鉄骨造 延床面積 4,226.08 m²

竣工 2019年1月

受賞 第33回日経ニューオフィス賞

2020年グッドデザイン賞

第1回JIA東北建築大賞2020

写真 阿野 太一